報告

第 67 回通常総会・第 103 回講演大会記事

昭和 57 年4月2日第 67 回通常総会，名誉会員推挙式，日向方斎学術振興資金贈呈式，表彰式，特別講演会が，また4月1日，2日，3日の3日間第 103 回講演大会がいずれも東京工業大学（東京都目黒区大岡山）で開催された．

第 67 回通常総会

第 67 回通常総会は武田会長が議長となり，木下本会専務理事司会のもと，4月2日東京工業大学大講堂で開催された．冒頭に武田会長の挨拶が行われた．

「第 67 回通常総会ならびに第 103 回講演大会開催に当り，一言ご挨拶申しあげます．

皆様も御承知の通り，不透明のなかで変動する 80 年代も3年目を迎え，わが国産業界も世界中に蔓延した経済環境の冷え込みに囲まれ，又各国との貿易摩擦に直面して，低経済成長を余儀なくされております．このような環境下で鉄鋼業界も国内需要の極端な落ち込みと，発展途上国の追いあげによる輸出の減少によつて各社とも，かなりの減産を余儀なくされております．その中にあつて各社におかれましては，たとえば高炉のオイルレス操業技術の確立，製鋼における二次精錬による高品質鋼の生産，更に後工程の連続化にみられるようにエネルギーの有効利用，品質の向上と操業の合理化に努力されております．本年もひきつづき資源・エネルギーの有限性への認識に立つて，更に生産の合理化，エネルギーの有効利用を図ると共に，品質の向上に邁進し，そのための新しい技術を生み出す必要性が強く認識されております．

私はこの点において，日本鉄鋼業を技術面から支える学会として，当協会の責任の重大さを痛感すると共に本年も基礎研究の充実と実際生産に適用しうる新技術の開発に一層の努力を傾注しなければならないと考えております．

当協会はこのような見地に立ちまして，従来から共同研究会，鉄鋼基礎共同研究会，鉄鋼技術情報事業等あらゆる事業を通じて技術の向上と人材の育成に努めて参りました．

一方春秋の講演大会は，鉄鋼業および鉄鋼技術の発展に大きな役割を果しておりまして，今第 103 回講演大会も発表論文数は 666 件を数え，当協会の来るべき新時代にふさわしい論文が発表されることになつておりまして誠にご同慶の至りに存じます．

このほか，当協会では多くの諸事業を行つておりまして，その内容につきましては後刻，白松理事からご説明申しあげますが，国際関係といたしましては，二つの国際会議と四つの二国間シンポジウムを開催し，又，昭和 54 年からお引受けいたしております ISO TC 17 および同 SCI 幹事国業務など，いずれも精力的に推進しておりまして，各国から高い信頼と評価を得ております．

当協会といたしましては，今後も国際的責務を果すべく更に努力致しますので会員および関係各位のご支援，ご協力をお願い申しあげます．

本日は，この総会の後，住友金属工業株式会社から日向方斎学術振興資金のご寄贈をお受けすることになつておりまして，当協会といたしましては，新たに若手学者が海外に優れた論文を発表される場合の渡航費の援助等の事業を加えることになります．

引き続き行われます，名誉会員推挙式では，吉崎鴻造博士と不破祐博士のお二人を新名誉会員にご推挙申しあげることになつております．

また，渡辺義介賞，西山賞をはじめとする各賞の表彰式が行われますが，新名誉会員ならびに各賞受賞者のご業績に敬意を表しお祝い申しあげますと共に，今後も一層のご研鑽ご活躍をお願いいたしまして，私のご挨拶といたします．」

以上挨拶が行われた後，総会の議事に入つた．付議された案件は次の通りである．

議案第1号　昭和 56 年度事業報告，収支決算ならびに財産目録の件

議案第2号　昭和 57 年度事業計画ならびに収支予算の件

議案第3号　理事，監事ならびに評議員選挙の件

初めに議事進行上，議案第3号理事，監事ならびに評議員選挙から始められた．選挙管理委員に安達甲一君，村上惟司君を選び投票が行われ別室において開票に入つた．続いて議案第1号ならびに第2号が関連しているので一括議題として事業と会計に分けられた．

昭和 56 年度事業ならびに昭和 57 年度事業計画について白松理事より次の報告がなされた．

（講演大会，出版事業）

講演大会は，春は東京，秋は京都において，それぞれ三日間の会期を以つて開催し，講演発表数は 1 400 件を数えた．発表数は毎年増加しており，誠に望ましい状況にある．

昭和 57 年度は，さらに充実いたし，本大会の他秋には北海道開催を予定した．

和文会誌「鉄と鋼」は研究論文の投稿数増加とともに，会員の意向を反映させ，報告，解説記事等を掲載するなど内容充実を図つている．

特に講演大会での発表数増加に伴い昭和 56 年度から講演概要集を春秋各2冊計4冊とし，普通号 12 冊と合せ 16 冊発行とした．

また，欧文会誌「Transactions ISIJ」は，優れた研究論文，技術資料のほか，春秋の講演大会の概要を掲載するなど，一層の充実に努めている．この結果，海外の読者も増えつつある．

そのほか，昭和 54 年度から改編出版を開始した「鉄鋼便覧」は昭和 56 年度において「基礎編」と「鉄鋼材料・分析試験編」を刊行したが，引続き昭和 57 年度には「二次加工・表面処理・熱処理・溶接編」ならびに「鋳造・鍛造・粉末冶金編」の二冊を計画し，この刊行をもつて全6巻7冊全出版を完了する予定である．

（技術講座・工学セミナー等）

西山記念技術講座は，鉄鋼業における最も新しい学術

技術を系統的にまとめ，会員諸兄の知識向上を目的としており，昭和 56 年度は，東京，大阪，名古屋，広島，の各地において計 8 回開催した．

鉄鋼工学セミナーは，生涯教育の一環として講師と受講者が一週間に亘り宿舎に同宿して行つており，昭和56年度は，134 名の参加者があつた．

さて，昨年春の総会の折に，日本鋼管株式会社から同社創立 70 周年を記念する資金の寄贈を受けたが，この寄贈資金により鉄鋼業を支える関連技術を中心テーマとする白石記念講座を昭和 57 年度から発足することとなつた．

第 1 回白石記念講座は本年 6 月「鉄鋼とコンピューター」をテーマに開催する．

(調査研究事業等)

鉄鋼技術全般に亘る共同研究会は現場的立場からの研究，情報交流を 18 部会の構成により行つており参加者への寄与は大なるものがある．

一方，当協会と日本金属学会，日本学術振興会の三者による鉄鋼基礎共同研究会はテーマ，研究期間を定めて行つており，昭和 56 年度末で「高温変形」「高炉内反応」の両部会が終了し，昭和 57 年度からは「大形鉄鋼材料環境特性」部会の発足を計画，合計 5 部会が活動することになつた．

また，当協会独自の重要基礎研究は，特定基礎研究会で行つており，昭和 56 年度には，「鋼材の表面物性」部会が発足し，従来の二部会と合せ三部会が活動した．しかしこの内「スラグの有効利用」と「原料炭の基礎物性」部会は，終了となり，代つて昭和 57 年度には「石炭のコークス化特性」部会が発足する．

次に，標準化委員会は，鉄鋼関係 JIS 原案の作成，当協会規格案の作成，鋼材特性に関する各種データシートの作成，JIS 規格と ISO 規格との整合調査など幅広い活動を行つている．

また，鉄鋼標準試料委員会は，化学分析用，機器分析用等合せて，335 種にのぼる標準試料を製造頒布し国内外の鉄鋼分析技術の向上に努めており，昭和 56 年度には，新たに非金属介在物抽出用標準試料の頒布を開始した．昭和 57 年度にはさらに高純度鉄標準試料等新品種の製造を計画している．

(情報事業)

鉄鋼技術情報活動は特殊法人日本科学技術情報センターとの協力のもとに金属関係文献を抄録し検索システムへの入力作業を行うとともに，端末機によるこのシステムの利用と普及に努めている．

また，共同研究会資料のマイクロ化，およびその索引誌の頒布を開始したほか，鉄鋼技術情報誌の内容充実を図り，その名称を鉄鋼技術総覧に改めた．その他プロシーディングス関係，数値データ集関係を中心に収集整備を行い会員へのサービスに努めている．

(国際関係)

昭和 56 年度は 9 月に第 6 回材料集合組織国際会議を初め，二国間シンポジウムとして，国内で日本・ソ連，日本・チェコ，海外では，日本—中国および，日本—スウェーデンシンポジウムを開催し，それぞれ多大の成果を収めた．またドイツからの教育視察団等，海外からの来訪者のお世話をした．

昭和 57 年度は，11 月から 12 月にかけて第 7 回真空冶金国際会議の東京開催を予定し，二国間シンポジウムについては 5 月にドイツで日本・ドイツセミナーを，6 月に東京で日本・ベネズエラシンポジウムを開催する．

(ISO 関係)

ISO・TC17 および同 SC1 幹事国事務局は，過去の実務経験を生かし，処理案件を順調にこなすと共に，ISO 本部あるいは，各国で開催する会議への参加等精力的に行つた．

昭和 57 年度はこれら通常業務に加え ISO・TC17 総会と同 SC1 東京会議を計画した．

なお，昨年の秋季大会の折に山岡武氏卒寿記念募金会から寄贈を受けた資金によりまして，鉄鋼の学術・技術の共同研究において功績をあげられたグループ等を対象とする山岡賞を創設し本年秋には第一回山岡賞の贈呈式を行うこととなつた．

引き続き古茂田理事より昭和 56 年度収支決算ならびに昭和 57 年度収支予算について報告された．

(決　　算)

一般会計決算の結果，収入は 8 億 4 146 万 9 492 円となつた．本年度は会費収入，鉄鋼標準試料，会誌刊行物，印税収入および情報事業収入等増収があり，収入予算に対し 3 267 万 4 262 円の増収となつた．

一方，支出の部においては，8 億 1 859 万 8 277 円であり，支出予算に対し 980 万 3 047 円の支出増となつた．本年度は，会誌鉄と鋼を増冊したほか，各事業とも活発に行われ，また積立金の増額を行つたためである．

この結果，当期剰余金 2 287 万 1 215 円をもつて昭和 56 年度を終了した．

(剰余金処分)

次に剰余金の処分は，2 287 万 1 215 円を次年度に繰越し，昭和 57 年度財政を充実したく提案する．

(財産目録)

決算の結果，昭和 56 年度末現在の一般会計保有の純財産は，2 億 136 万 3 119 円である．

(別途資金会計)

別途資金会計は表彰ならびに事業資金ほか 14 の会計を有しており，それぞれの目的に応じ，特別資金運営委員会，理事会の議を経て支出しまたは蓄積されているが，白石元治郎記念資金と日向方斎学術振興資金の 2 つの会計が新設された．

また，山岡武氏卒寿記念募金会から表彰ならびに事業資金に 702万円余の収入があつた．

(補助金事業等会計)

補助金事業等会計は 14 の特別会計を有し補助金委託金あるいは他団体の分担金等により運営しており，いずれも充実した事業を行つている．

詳細は資料の通りである．

(予　　算)

(一般会計)

一般会計の収入の部では，前期繰越金を含め総額 8 億 7 638 万 3 215 円を計上した．本年度は，国際会議収入，印税収入，情報事業収入を増額計上したほか，会員各位のご理解の許に，個人会費を改訂し，また維持会費についてもかなりの増額をお願いすることにした．

支出の部では，昭和 57 年度の予算編成方針は事業規模を前年並の厳しいものとした．

その中で特に申し上げるのは，会誌の発行と図書の出版事業である．昨今の投稿論文数の増加に伴い，本年度も会誌鉄と鋼を 16 冊発行することとし，また鉄鋼便覧につきましては，最後の二巻を予算化した．

さらに，特定基礎研究会および鉄鋼基礎研究会の活発化，鉄鋼技術情報事業の充実，真空冶金国際会議を開催するほかは，おおむね継続事業であり，内容の充実に重点をおき，極力節約を計り予備費を含め 8 億 7 638 万 3 215 円を計上した．

（別途資金会計）

別途資金会計の予算は例年通り特別資金運営委員会および理事会の議を経て事業計画をもとに編成した．本年度は，新たに第 1 回白石記念講座と第 1 回山岡賞の贈呈が予定されており，そのほかは従来と変わらない．

（補助金事業等会計）

補助金事業等会計の収支予算は，ISO・TS17 および同 SC 1 幹事国業務といたしまして，それぞれ第 1 回東京会議が予定され，このため関係各社には分担金の大幅増額をお願いし，予算化した．

以上議案説明の後，山田監事より監査の結果報告がなされ，満場一致をもつて議案第 1，2 号が承認された．

引き続き先に行われた選挙の開票が終わり選挙管理委員より候補者はいずれも絶対多数で当選された旨報告された．ここで会長，副会長，専務理事，常務理事を互選するため臨時理事会が開催され，新会長に松下幸雄君，副会長に中村正久君（新任），小島浩君（留任），田畑新太郎君（留任），専務理事に木下亨君（留任），常務理事に三井太佶君（再任）が当選された旨議長より報告され，松下新会長より就任挨拶（鉄と鋼 7 号 709 ページ掲載）が行われ，通常総会が終了した．

名誉会員推挙式　新名誉会員に次の二氏が推挙された．

吉崎鴻造君（東洋鋼鈑(株)社長）

不破　祐君（東北大学名誉教授）

日向方斎学術振興資金贈呈式　住友金属工業(株)より若手学者が海外において優れた研究発表を行う際の渡航費の援助等」を目的として，本会に 5 000 万円の基金が住友金属工業(株)池島副社長より贈呈された．

表彰式　続いて表彰式に移り，下記のとおり各賞の授与式が行われた．

渡辺義介賞　豊田　茂君

西山賞　荒木　透君

服部賞　明田　義男君，神居　詮正君

香村賞　水野　實君，三輪　親光君

渡辺三郎賞　小野寺真作君，藤井　浩一君

俵論文賞

池田　孜君，井上　勝彦君，上仲　俊行君，
金本　勝君
丸川　雄浄君，城田　良康君，姉崎　正治君，
平原　弘章君
鍵田　征雄君，北村　邦雄君，北浜　正法君，
片岡　健二君，中川吉佐衛門君，青木　茂雄君，
松田　修君，吉田　昭茂君
冨士川尚男君，村山順一郎君，藤野　允克君，
諸石　大司君

渡辺義介記念賞

池高　聖君，伊藤　慶典君，遠藤　良幸君，
大矢　龍夫君，金倉三養基君，鈴木　昭男君，
角南　秀夫君，瀬戸　浩蔵君，田山　昭君，
辻井　和正君，福岡　利和君，三好　俊吉君，
山元　深君，吉川　欣弥君

西山記念賞

赤松　経一君，阿部山尚三君，荒井　敏夫君，
上田　正雄君，清永　欣吾君，小指　軍夫君，
斉藤　好弘君，新明　正弘君，武智　弘君，
中島　浩衛君，原　行明君，古林　英一君，
牧　正志君，宮下　恒雄君，森　克巳君

特別講演会　表彰式に続き次のテーマで特別講演会が行われた．

1.「日本鉄鋼業におけるエネルギー使用の変遷—特に石油危機以後の対応について—」
　渡辺義介賞受賞　豊田　茂氏

2.「鋼のミクロ組織的基礎研究と新しい性能開発」
　西山賞受賞　荒木　透氏

講演大会

講演大会は 4 月 1 日，2 日，3 日の 3 日間東京工業大学教養学部を中心に 14 会場に分かれて行われた．

講演大会　講演数は製銑関係 103 題，製鋼関係 179 題，性質・分析関係 350 題，計 632 題が 14 会場にわかれ，講演ならびにその討議が活発に行われた．

討論会　上記講演の他，次の 5 テーマ 29 題の講演による討論が活発に行われた．

1．高炉の省オイル操業技術　座長　飯塚元彦
2．新しい転炉製鋼技術　座長　森　一美
　副座長　川上　公成
3．亜鉛系めつき鋼板およびその製造法
　座長　安藤　成海
4．快削鋼の現状と将来　座長　阿部山尚三
　副座長　山本　重男
5．鋼材の延性破壊　座長　三村　宏

ポスターセッション　4 月 1 日性質関係 10 題，2 日製鋼関係 11 題，3 日製銑関係 10 題でそれぞれ開催された．

懇親会　懇親会は 4 月 2 日午後 6 時より東京工業大学内学生食堂で日本金属学会と共同開催された．高橋恒夫東工大教授司会のもと，三本木（金属），松下（鉄鋼）両新会長挨拶，松田東工大学長のスピーチの後，岡田実氏の乾盃で始まり，各地から参集した会員諸氏の間で歓談がくりひろげられた．

ジュニアパーティー　4 月 1 日午後 5 時 40 分より東工大学生食堂で開催され，若手技術者，研究者を中心に自由に懇談がなされ親交を深めた．